

寄り添うことで“つながる”私のスタイル～成長と信頼の秘訣～

弁理士の仕事ってどんな感じ？興味はあるけどイメージがわからない・・・そんなあなたへ！弁理士を目指したきっかけや仕事の面白さ、プライベートとの両立まで、リアルな声をたっぷり聞いてみました。未来のキャリア選びのヒントがここに。



今回インタビューを受けていただいたのは太田 悠(おおた ゆう)さん。2010年に、弁理士の資格を取得。大学院を卒業後に、東京の特許事務所に就職。その後、念願だった北海道にUターンし、現在のご自身の事務所である悠国際特許事務所を経営。発明者の想いにどれだけ寄り添えるか、大切にしているモットーとその働き方に迫りました。

-目次-

1. 弁理士を目指したきっかけ
2. 弁理士の仕事のやりがい
3. ワークライフバランス
4. これまでと今後のキャリアパス
5. 弁理士を目指す若者へメッセージ

1. 弁理士を目指したきっかけ

——どのように弁理士という仕事を知りましたか？

大学3年生で就職活動している時に、理系が目指せる士業として弁理士という職業を知りました。父が公認会計士ということもあり、士業にはもともと親しみがありました。弁理士について色々調べたり、父の知り合いの士業の方々に話を聞いたりしているうちに、弁理士を目指す決意が固まりました。

——大学での専攻やこれまでの経験は、弁理士の仕事にどのように活かされていますか？

大学では土木工学を専攻していたのですが、北海道には土木が関係する案件も多く、技術的にどう解釈するか判断などの際に大学で学んだ知識が役立っています。前職の特許事務所では、知財部と仕事をすることも多かったので、諸外国の知財制度の習得やクライアントに納得してもらえるような説明力など、専門性の高い業務経験を積むことができました。

——どういった点に魅力を感じましたか？

知財の専門家としてクライアントをサポートすることで、発明者の想いやアイデアを『カタチ』にして、その方や企業の夢を応援できる場所だと思います。



2. 弁理士の仕事のやりがい

——これまでの仕事で印象に残っていることや、嬉しかったことは何ですか？

主に独立してからの話になりますが、企業の経営者と直接話す機会も多いので、経営者の視点について学ぶことができ、幅広い相談に対応できるようになったことですかね。クライアントに信頼してもらって、その方から紹介で仕事が広がるということも多く、そのようなつながりを嬉しく思っています。

——仕事の面白さは何ですか？

新しい技術や最先端の分野について、発明者から高い熱量で聞けるところです。発明の背景や発明者の想いを直接聞きながら、いかに権利化できるか、ビジネスをサポートできるかを考えることにやりがいを感じています。そもそも知財とは何かの説明を求められることや、企業について一から勉強して関わる仕事も多く、自分自身も成長できる環境があります。

——この仕事ならではの難しさや、それをどのように乗り越えていますか？

新しいクライアントに対して一から知財について説明し、信頼関係を築くことは大変ですが、そういう時こそ丁寧な対応が必要だと思います。狙ったビジネスのために、どういった技術を権利化すべきか、文字として表現することは難しいですが、だからこそクライアントとのコミュニケーションが大事です。新しい技術や仕組みに触れることも多いので、自分自身が幅広い知識を身につける必要もあります。



3. ワークライフバランス

——弁理士の仕事は忙しいイメージですが、実際はどうか？

期限が決まっている仕事も多いですが、期限に対してある程度自分でスケジュールを管理できるため、裁量を持って働くことができると思います。自分自身も感じていることですが、子育てや家庭との両立がしやすい環境だと思いますので女性が選択する職業としてもオススメです。

——プライベート(や家庭、育児)と仕事の両立はどのように実現していますか？

子供の送迎などに合わせて柔軟にスケジュールを調整しています。内容に応じてですが、在宅やリモートでの作業も可能です。

——テレワークやフレックスタイム制など、柔軟な働きは可能ですか？

もちろん事務所によって制度は異なりますが、テレワークやフレックスタイム制を導入しているところもあるかと思います。対面での打ち合わせが基本ですが、ウェブ会議も活用しながら柔軟に働いています。



4. これまでと今後のキャリアパス

——北海道で独立することを選んだ理由は何ですか？

東京の事務所に就職しましたが、10年超経験を積ませていただけたこともあり、子育てをきっかけに念願だった地元北海道に戻ってきました。戻ってからもリモートで仕事には関わっていましたが、戻った以上、地元の発展を支えたい気持ちが強くなり、北海道に自分で事務所を開きました。

——将来的にどんな分野の専門性を高めていきたいですか？

経営者と話す機会が増えたので、あらゆる角度からの質問を受けます。技術のことだけではなく、企業の経営者と対等に話せるように、幅広い知識やコミュニケーション能力をもっと身につけたいと考えています。多様な分野に対応できる弁理士を目指しています。

——弁理士として働く中で、どのようなスキルや経験が重要だと感じますか？

やっぱりコミュニケーション能力が最も重要で、相手の話をよく聞いて、いかに信頼関係を築けるかが求められるかと思います。技術的な知識だけではなく、経営者の視点やプレゼンテーション能力も必要です。柔軟に学び続ける姿勢が大切だと思います。



5. 弁理士を目指す若者へメッセージ

——弁理士試験合格のために、特に力を入れたことや工夫したことはありますか？

どのような環境にあっても忙しさとの両立になると思いますが、私の場合は、大学在学中から受験勉強を始めたので、卒業論文や修士論文、学会発表との両立に苦労しました。始めは、それらの合間を縫って勉強していましたが、細切れの勉強を長期間続けるよりも、試験前の短期間に集中して情報整理することが大事だと気づき、試験前にまとまった勉強時間を捻出したことが合格のポイントだったと思います。

——合格に向けてどのように勉強し、どのくらいの期間かかりましたか？

完全オンライン型の予備校に通っていました。大学4年生から受験を始め、受験勉強期間は約3年でした。短答式試験は範囲が広くて大変でしたが、論文式試験は好きでした。文章を書くことは嫌いではなかったので。

——弁理士を目指す若者へアドバイスやメッセージをお願いします。

弁理士は就職等を通じて専門知識を身につけてから取る資格、という印象が強いと思いますが、学生から直接特許事務所に入るという選択肢もあることを伝えたいです。また、実務経験を積めば、地元へのUターンを叶えることも可能です。弁理士はやりがいのある仕事です。もし、弁理士という職業に興味湧き、目指したいという気持ちが固まったなら、他の受験生のバックグラウンドとは異なっていたとしても、ぜひ挑戦してほしいです。



(写真左右3人はインタビューを担当した特許庁弁理士室と北海道経済産業局知的財産室の職員)

——お話しいただきありがとうございました。